

経営比較分析表（令和4年度決算）

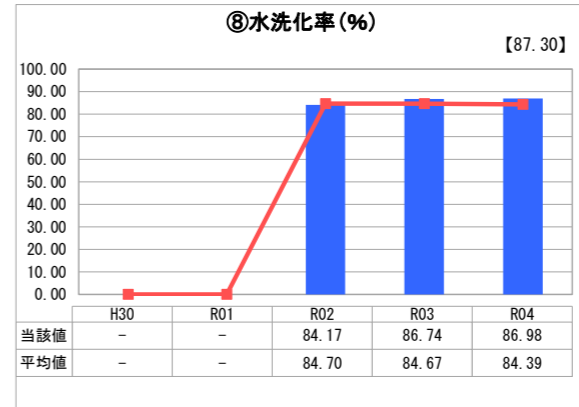
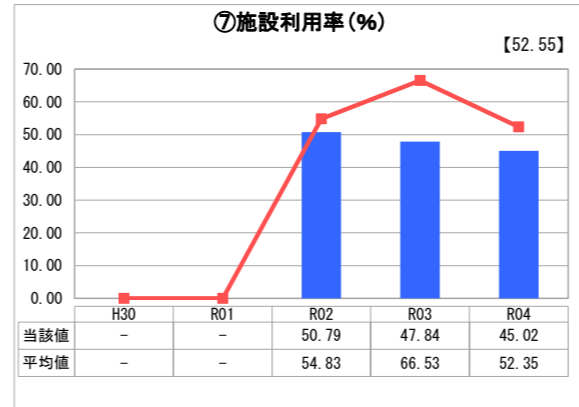
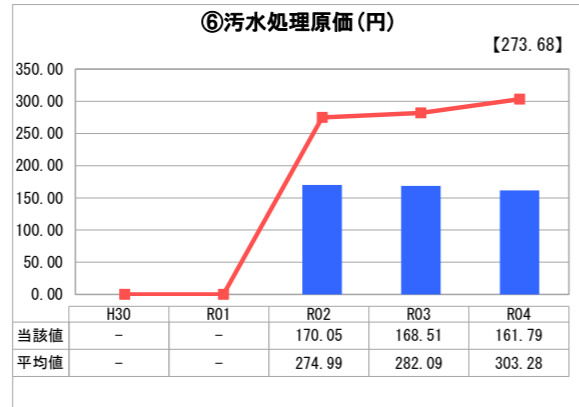
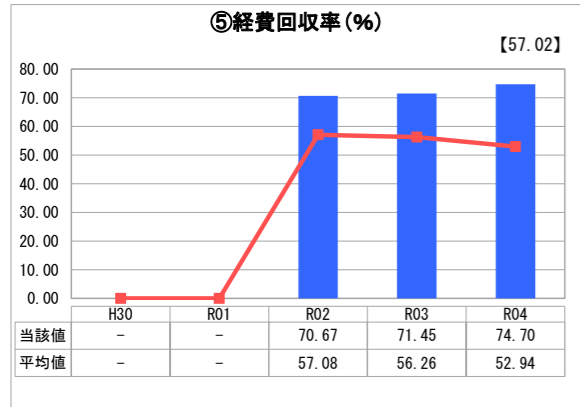
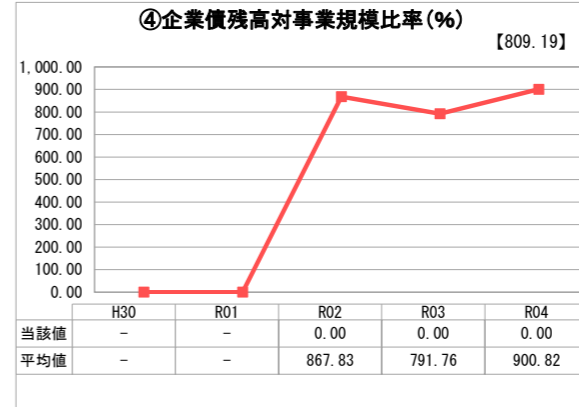
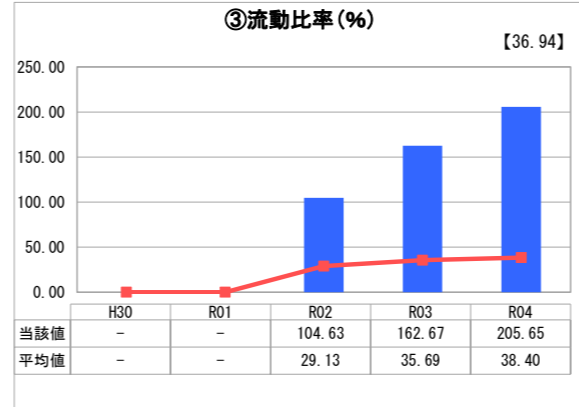
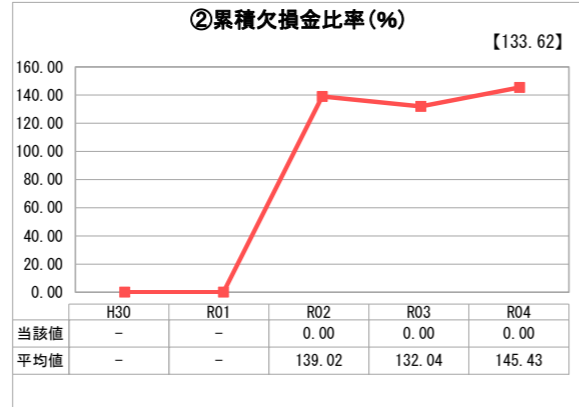
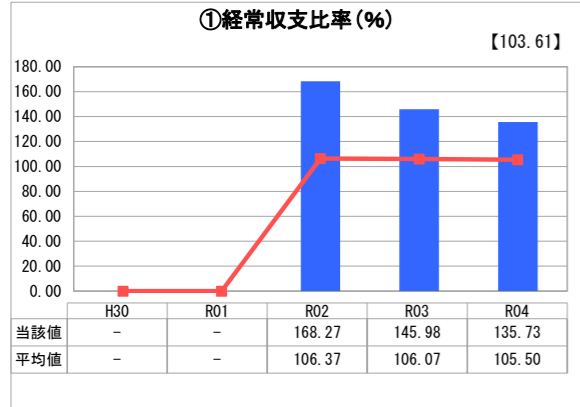
宮崎県 日向市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	70.79	4.18	110.30	2,750

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
59,390	336.89	176.29
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,466	2.18	1,131.19

■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は、他会計負担金と営業収益（使用料収入）が減少しましたが、前年度に引き続き100%を上回り、黒字経営の状況です。なお、一般会計繰入金については、基準外繰入金の抑制を図るため減少しており、農業集落排水事業区域内人口の減少で、営業収益も減となっています。

② 累積欠損金比率は、累積欠損金が発生していません。

③ 流動比率は、100%を上回っており、類似団体と比較しても高い数値となっています。要因としては、保有現金の増加による流動資産の増加と、未払金の減少による流動負債の減少により、流動比率は前年度から増加しています。

④ 企業債残高対事業規模比率は、企業債残高は全て一般会計からの繰入金で負担していることから計上されません。

⑤ 経費回収率は、使用料の緩やかな減少よりも、主に人事異動での人件費の減少に伴う汚水処理費の減少が上回ったため、増加傾向にあります。しかしながら、100%を下回っており、汚水処理に要する費用を使用料で賄えていない状況です。今後は使用料改定など適正など使用料収入の確保が課題となっています。

⑥ 汚水処理原価は、前年度と同様類似団体平均を下回っています。今後は、施設の設備機器類の更新時期を迎え、維持管理費の増加が見込まれるため、汚水処理原価も増加するものと考えられます。

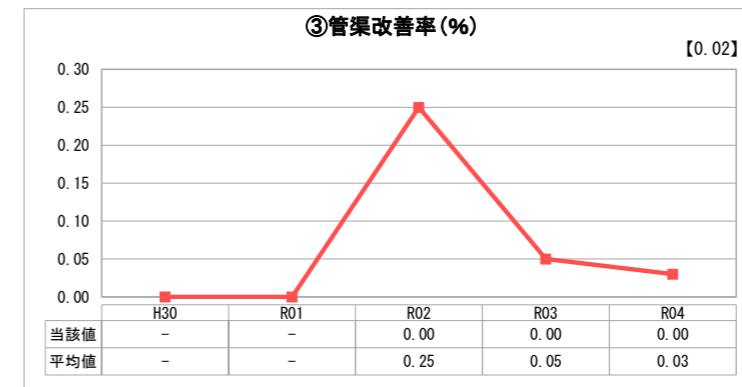
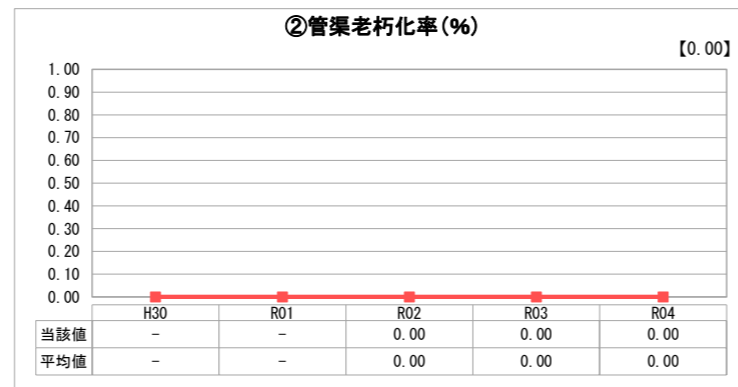
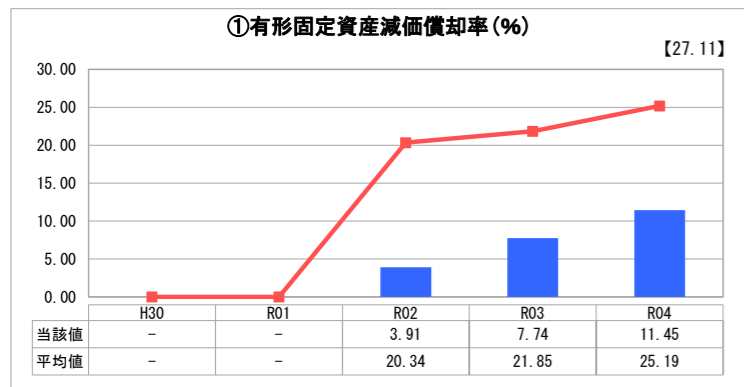
⑦ 施設利用率は、農業集落排水区域内の人口減少に伴い、処理水量も減少傾向にあり、類似団体平均や全国平均よりも低い数値となっています。

⑧ 水洗化率は、類似団体平均とほぼ同じです。処理区域内人口が減少傾向にありますが、今後も新規接続を増やしていく必要があります。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は、類似団体平均や全国平均に比べて数値が低ですが、施設の老朽化の進行に伴い、数値が上昇傾向にあります。

2. 老朽化の状況



全体総括

令和4年度は、「日向市農業集落排水事業最適整備構想計画」（令和3～7年度）に基づき、市内の3地区の処理施設の修繕・改築を行う長寿化対策工事を実施しました。

現在の農業集落排水事業は、経常収支比率や流動比率としては100%を超えている状態ではありませんが、経費回収率が100%を下回っていることから汚水処理費を使用料だけでは賄いきれず、一般会計からの繰入金に依存している状況です。

今後も、更なる収入源の確保が求められることから、使用料改定を着実に進め、経営の健全化を図る必要があります。

将来にわたりサービスの提供を安定的に継続することが可能となるよう、中長期的な経営の基本計画である「経営戦略」により、引き続き経営基盤の強化と財政マネジメント向上に取り組んでいきます。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。